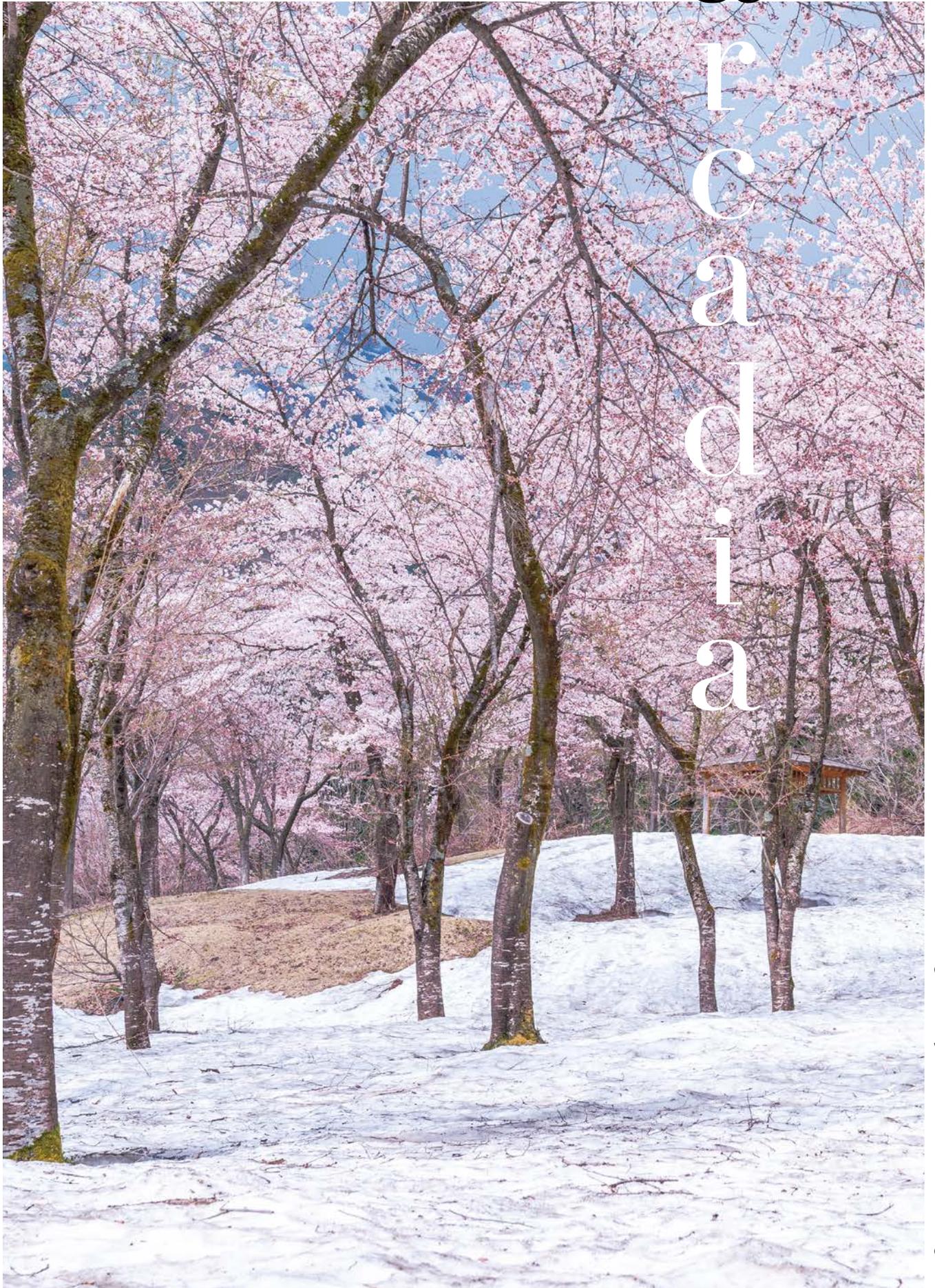


a  
r  
c  
a  
d  
i  
a



「置賜らしさとは」という問いを探究してきた今年度の季刊誌。古代から中世、近代、現代と時代ごとに「そこ」にあった風景や文化に目を向けてみると、そこには常に「ひと」がいた。好奇心や未来への願いを抱き、何かを始めた人がいた。

そして、彼らの好奇心や願いは往々にして、この地域の山や川、雪や雨といった「土地そのもの」と密接に関係していた。異国の旅人をして「美しき、勤勉、安楽さに満ちた魅惑的な地域である」と言わしめたのは、何かを始め、継ぎ、終わらせながらこの地で文化を紡いできたひとの縦の糸と、変わらず聳え続ける山や、流れ続ける川といった土地そのものが持つ横の糸とが紡ぎ出してきた「置賜」という一つの織物であったように感じられる。

これから紡がれていくのは、どんな織物なのか。それを紡いでいくのは、他ならぬ、私たち自身である。さあ、今を楽しみ、未来の「置賜らしさ」を紡ごう。

季刊誌「arcatial」編集部

# 地ノヒト

未来の幸福を願う

置賜らしさを紡ぐ

# 風ノヒト

## CONTENTS

04 地の人  
「置賜らしさ」は、一人の思いつきから紡がれ始める。

10 風の人  
「風の人」が運ぶ、新たな文化

14 視点を変えて  
広がる世界を味わう  
やまがたアルカディア観光局

16 体験・探究  
好きなことに夢中で楽しむ時間を

18 2市3町フォトスポットマップ  
ファインダー越しに見る  
東洋のアルカディア

### Cover STORY



1878年イザベラバードが置賜を旅した。東洋のアルカディアと口にしたのはその時のことだ。それから100年以上経ちこの桜公園は造園され、私は2022年にこの風景に東洋のアルカディアを感じシャッターを切った。言葉はきっかけであり解釈を生むものだ。今を生きる私たちが今を編んでいこう。きっとそれが良い。





# 安部 義朋

ABE YOSHITOMO

長井市内にある総宮神社。創建1220年の歴史ある境内には、千社札の代わりにたくさんのツーリングクラブのステッカーが貼られている。「バイク神社」とも呼ばれ、年間7000台以上のバイクが集うようになった経緯を、宮司・安部義朋さんに伺った。

『高校生の頃に、友達とぼんやりと思い描いたんです。将来、バイク好きが集まる神社になったらいいなって』そう語る安部さんは当時から大のバイク好き。時間を見つけてはバイクにまたがり風を切って旅に出て、その様子を自身のブログで発信したりしていた。

『特にバイク神社を目指していたわけではないんです。バイク好きな人が来てくれた時に、じっくりお話をしたり、写真撮影どうぞと、同じことが好きな人同士で交流していたら、気づけばこうなっていました』

今では全国各地から多くのライダーが集まり、地域の子どもたちがバイク見たさに神社に来てくれるようになった。「バイクが好きだ」という一人の純粋な気持ちから新たな文化が紡ぎ出され始めている。

- 1 安部義朋さん／『いつでも風を切って走れるように、パンに愛車を横んできてるんです。』
- 2 寄付板の下に貼られるバイクステッカー／神社を支える人たちの芳名の下には、千社札のようにバイクチームのステッカーが貼られている
- 3 オリジナルスタンプが押されたコーヒー／バイク好きな方とゆっくり話しているうちに、オリジナルのコーヒーを振る舞うようになった
- 4 バイクチームのロゴを模した案内板／総宮神社の案内も、バイクチームのロゴを模した「ソーマヤ」というデザインに



# 地ノヒト

「置賜らしさ」は、一人の思いつきから紡がれ始める。

古代、中世、近代と、時代ごとの風景をたどりながら「置賜らしさ」「アルカディアらしさ」とは何かという問いと向き合ってきた、今年度の季刊誌。

そこから見えてきたのは、わたしたちが「置賜らしさ」と呼ぶものは、もともとその地に最初からあるものでも、昔からあるものを引き継いだものでもなく、その時代にこの地に生きた人が、「今を生きる」中で、「未来の幸福を願う」中で、その都度、新たに紡ぎ出されてきたものであるということだった。

太古の地層から掘り出されたのは、生活に直接関係のない道具だった。今も残る祈りの場は、大きな木や岩に生命のありかを見立てた想像だった。伝統的な祭りは、お祓いのための歩み方を教えてくれた人たちがいたから始まった。各地に点在する祈りの社は、楽しみを生み出すためのグループ旅行の行き先だった。今となっては欠かせない道は、たった一人の男の情熱から始まった。子どもたちが躍動する土俵は、地域の人たちの楽しみを生み出そうとする思いつきから始まった。

文化や、伝統、「らしさ」には、始まりがある。何の文脈もないところから、ひよんなきっかけて、始める人がいる。

今年度の季刊誌の最終号、「現代」の置賜に目を向ける今号では、これからの「置賜らしさ」を紡ぎ出す人にフォーカスしてみたい。



安部 義朋



小野 也卓



渡 沢 寿

# 渡 沢 寿

WATASAWA HISASHI



2



3



4



2



3



1

# 小野卓也

ONO TAKUYA

趣味や嗜好が文化の芽を紡ぎ出す。かつて上杉家の殿様もその眺めを楽しんだと言われている眺めが味わえる、長井市草岡地区にある洞松寺とうしょうじ。住職・小野卓也さんに案内された部屋には、700を超えるボードゲームが並んでいた。小野さんは、大学時代に友達とボードゲームに興じ始めたことがきっかけで、今では日本のボードゲームジャーナリストの第一人者となっている。『ボードゲームの魅力って、人と関わることなんです。ゲームそのものも面白いんですが、一番おもしろいのはゲームを通じて人と繋がること、人を知ること』そう話す小野さんのもとには、月に2回くらいのペースで東北各地からボードゲーム好きが集まってボドゲ会が開かれている。時に、ボードゲームのパッケージを見ながら2時間近くも話し込むこともあるという。小野さんは、地域の方々向けにボドゲイベントを開いたり、子どもたちにもボードゲームの事前授業も行っている。「物を大切に扱うこと、ルールを守り楽しむこと、負けても泣かないこと。この3つを約束に、楽しんでもらうことをゴールにお話しします」SDGsにも通じる哲学で、ボードゲームを楽しむという文化の種が蒔かれている。

- 1 小野卓也さん／『みてるだけでも楽しめるんですよ、ボードゲームって』
- 2 小野さんのボードゲームコレクション／700を超える数のボードゲームが保管されている。毎年少しずつ入れ替えながら気付けばこの数になったという
- 3 小野さんおすすめのボードゲーム「スカウト」。シンプルなかードゲームながら奥が深い日本製のボードゲーム

南陽市の山形おきたま産直センター代表・渡沢寿さんは、有機農業に取り組み農家だ。現在の社屋の隣には、彼が仲間と一緒にリノベーションした空間がある。屋号である『源八』の看板が掲げられたその場所は、かつては会議室だったが、今ではさながらバーのような雰囲気のある場所になっている。

『農家の若手が集まって語ったり飲んだりできる場所ですつべ！と、みんなで改装し始めた』。

流し台を運び込み、壁を改修し、本棚を設置すれば自然とそれぞれが好きな本や漫画を持ち込み、自分達だけの基地ができあがった。

『有機農業は、自然と向き合う。高度な知識も必要だし、地道な試行錯誤の積み重ね。だからこそ、志持って、仲間と一緒に取り組まないと』。

なければ作れない。自分達で手作りした空間に集い、この地域で農家として食べていくための作戦を、彼らは今日も練りながら、酒を酌み交わしている。

伝統に携わりつつも、これまでのものを引き継ぐだけでなく、自分自身の心から湧き上がってくる「おもしろい」を原動力に文化や場づくりに取り組んでいる人たちがいる。彼らが「いま」紡ぎ出しているものは、「いつか」この地域の「らしさ」と呼ばれるものになっているかもしれない。

地ノヒト

- 1 渡沢寿さん／『農家は考えることをやめたら終わり』
- 2 基地で仲間と語る渡沢さん／『一人の百歩より、百人の一步。みんなで進んでいくことが大事。』
- 3 自分たちで手作りした基地／家具や壁なども一つ一つ仲間と一緒に手作りした
- 4 自然の力を信じて作物が育てられる／有機農業では、そこに住む生き物も作物を育てる担い手

地ノヒト



名木「釜の越桜」の今の姿も、周辺を囲む桜たちも、今が最も美しい。

# 風ノヒト

由緒ある神社、歴史ある仏閣、伝統的な農法。地の人々が先人からバトンを受け取り、自分たちなりの新たな文化を作る一方、かつての文化がそうであったように、「置賜の外」からこの地を訪れた、風の人々が運ぶ新たな文化の萌芽もある。

置賜地域を包む自然と、自然と共に生きる暮らしにエネルギーを感じ、親しみを持って伝える人。競技用けん玉の生産日本一となった場所で、けん玉をライフワークにするために海を渡り生きる人。地域文化財の価値を共有し、民具の展示や体験を通して時代を生きることについて見つめ直す人。今の置賜地域の至る所に、自分自身の「らしさ」を探究する人たちがいる。

これまで季刊誌で取り上げた、私たちが「伝統」や「文化」と呼んでいるそのほとんどは、誰か一人の思いつきや熱意が発端となっていた。だからこそ、こう言えるのではない。「置賜らしさ」とは、ここに住まう一人一人が自分の人生を全うし、今を一生懸命に、全力で自分の心に従って生きた先に結果的に紡がれるものだ、と。その人「らしい」生活を紡ぎ出した先に、これからの「置賜らしさ」ができる。ここで紹介する風の人々が生み出す光景は、いつかこの地域の文化や、伝統と呼ばれるものとなるポテンシャルを秘めている。

深く積もる雪が溶け始め、春の足音が聞こえてくる季節。一人一人のいのちの芽が開く、置賜の春である。

石井 紀子



Nick Gallagher



Cédric Blattner



## Cédric Blattner

セドリック ブラットナ

スイスのジュネーヴ出身のセドリック・ブラットナさんは、2018年の冬、妻のひかりさんの故郷、小国町へと移住した。スイスでは公共環境整備の分野に就職したが、人とのつながりの少なさを感じたというブラットナさん。その後、障害者施設でコミュニケーションを主体にした仕事を選択したものの、そこでは逆に自然の中で生きる意識が希薄になっていくと感じた。人だけでなく、自然だけでなく、両方と向き合えるツアーガイドの仕事にたどり着いた。スイスよりもずっと厳しい小国町の自然。しかしその「怖さ」が魅力でもある、とブラットナさんは語った。「たとえば、好きな人は、絶対に嫌われたくない怖い存在でもあるよね。好きじゃなかったら嫌われてもいいはず。怖いな、と思った所こそ行かなければならないんだよ」。小国町の自然という、この地にそもそもあるものが、風の人によって魅力的に表現されている。

- 1 セドリック・ブラットナさん／「人間はもともと自然から生まれたもの。自然と触れ合うことは自分の根源に還るような体験であり、エネルギーがもらえるんだ」
- 2 妻の川崎ひかりさん(写真左)／結婚後スイスで8年間暮らした後、長女と共に小国町へ。現在は二人のお子様と4人暮らし
- 3 サバイバルキャンプ／人と自然のつながりを深め交流できる様々なアクティビティを企画中
- 4 プッシュクラフト／ TENTをたてる、ロープワーク、火起こし、山の木を使ったスプーン作りなどの木工、身近な植物の知識を学ぶ

風ノヒト



# Nick Gallagher

ニック ギャラガー



「風の人」によって地のものが磨かれる光景は、遊びの中にも見出せる。長井市の市技にもなっている「けん玉」。この魅力に取り憑かれたニック・ギャラガーさんは、ワシントン大学卒業後、2022年11月から長井市に渡りけん玉の魅力を広めるべく活動をスタートした。彼が初めてけん玉に触れたのは中学1年の頃。「ダサイ」と思ったけん玉の、大皿に初めて玉を乗せた瞬間「一生続けたい！」と思うほどの快感が体中を走ったという。そこからは双子の弟と競い合いながら毎日夢中でけん玉を続けた。2017年にプロデビューを果たし、2018年にはワールドカップで優勝。「不可能だと思いう技も練習すればできるようになる」「自由に自分らしく。そういうのが好き。それが一番楽しいんです」。今、ここで真っ直ぐに放たれる喜びと情熱が、けん玉の新たな魅力を引き出し、人々に伝播している。

- 1 ニック・ギャラガーさん／「けん玉を始めて11年。今でもできない技はあるし、そういうのを見るとできるようになりたい！と、強く思うんです」
- 2 ストリートスタイル／けん玉のすべてが無重力で行われているかのような多彩な動きのストリートスタイルは、大人も子どもも視線が釘付けになる
- 3 地域おこし協力隊として活動／小学校や学童への指導訪問、イベントでのパフォーマンス、けん玉を利用したまちづくりにも参加している
- 4 けん玉ひろば「スパイク」／誰でも無料でけん玉が体験できる施設。競技用けん玉の販売も行っている

# 石井紀子

ISHII NORIKO

「風の人」となるのは、海外から来た人たちはばかりではない。白鷹町歴史民俗資料館あゆみしるの学芸員、石井紀子さんもまた、この地の魅力を磨く「風の人」の一人である。千葉県船橋市出身の彼女は「文化財の一番そばにいたい」という理由で、修復の道を志し、東北芸術工科大学美術史・文化財保存修復学科（現・文化財保存修復学科）へ進学。文化財保存修復センターで2年間働いた後、白鷹町の地域おこし協力隊として、地域の特色や歴史を調査・広報する業務に尽力した。「見慣れた檀家寺の仏像でも調べると新情報が出てくる。それを地域の方と共有して、すごいねとおしゃべりするなど、地元の良いことを知って喜んでもらえることが一番嬉しいですね」と、笑顔の石井さん。時代の中でこぼれ落ちそうな地域の歴史・文化を慈しむように資料化し、今を生きる人、そして次世代の人たちが課題に直面したときに助けとなる可能性を紡ぎ出している。

- 1 石井紀子さん／白鷹町教育委員会生涯学習・文化振興係。白鷹町歴史民俗資料館学芸員
- 2 白鷹町歴史民俗資料館『あゆみしる』／旧十王地区コミュニティセンターを改修し、令和3年に開設された。白鷹町で実際に使われていた民具が展示されている
- 3 「道具を知ることによって、なぜ私たちの暮らしがここにあるのかわかるようになってくると、民具はもっと面白く感じられます」
- 4 機織り機／機織りは農作業のない冬場の女性の仕事であり、一家に一台は機織り機があった。機織り機は分解して収納できる

# 湖面、雪景、空の上 視点を变えて 広がる世界を味わう



YAMAGATA EXPERIENCE  
ヤマガタエクスペリエンス アウトドアガイド

三好 純史氏

生身で触れる、人と自然の豊かなつながり  
心を打つ体験が人生を変えた

飯豊町の白川湖をメインに、カヌーやSUPなどのアクティビティを行なっている「いいでカヌークラブ」が「YAMAGATA EXPERIENCE（ヤマガタエクスペリエンス）」へと生まれ変わりました。『地域の魅力をグローバルへ』という思いを、これまでよりさらに広く展開していきます。水没林でのカヌー体験をきっかけに飯豊町に移住されたという、三好純史氏にお話を伺いました。

「アウトドアガイドになった経緯を教えてください」

もともと民間企業で営業をしていましたが、あるお客様との出会いから、地域や人のために貢献できる消防士になりたいと思い転職しました。約12年間、東京消防庁に勤め、人の命に向き合い続ける中、自分の人生において新しいことや楽しいことに挑戦してみたい、という気持ちが芽生えてきました。そんな時に、山形在住の友人が「山形はおもしろい所だから遊びに来たら？」と誘ってくれたんです。せっかくだから山形の魅力をYouTubeで

配信しようと、東京の映像制作会社の友人を繋ぎ3人で一緒に山形を巡る旅をすることにしました。山形の居酒屋で「水没林が絶景だ」と聞き、カヌー体験を開催している弊社代表の堀江さんに電話をしたのが最初のきっかけです。初めて見た水没林は、カヌーで水の上には浮かび絶景に包まれているだけで、もう言葉がいらなくらい美しかったです。飯豊町、山形の力をすごく感じました。そこから堀江さんの「地域の魅力をグローバルに発信していきたい」という思いに共感し、一緒に夢を追い続ける決意をしました。「好きなことをお互い一生懸命やろう」という家族の言葉があり、2022年4月に埼玉から単身飯豊町に移住しています。

「強烈な自然体験とご家族の理解が三好さん突き動かしたんですね。アウトドアガイドの喜びとは？」

お客様に「旅行先になぜこの場所を選んだのか」を聞いてみると、一人ひとりに豊かなストーリーがあつてすごく奥深いんです。こ

## MISSION

東洋のアルカディアを子どもたちへ  
私たちは、この地に住む人、働く人、訪れる人とともに、精神的にも経済的にも幸福度の高い地域をつくりあげ、次世代につないでいく。

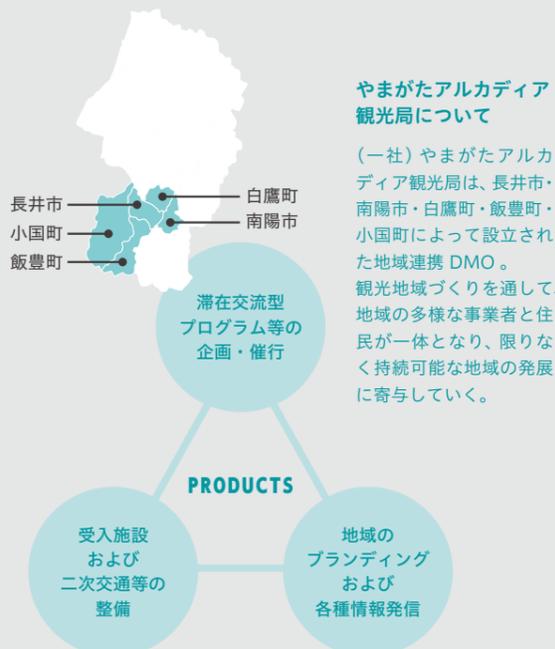
## VISION

日本最強のローカル

豊かな風土、持続可能なコミュニティ、いつでも帰れる、みんなを迎えられる心のふるさとやまがた  
緑や花に囲まれた、美しい里山風景。人々が行き交い、まちは住まう人の笑顔に包まれ、活気に満ち溢れている。住む人、働く人、訪れる人は、「東洋のアルカディア」と呼ばれるこの地に想いを馳せる。この地に暮らすことを誇り、100年、はるか先まで続く「日本最強のローカル」を目指す。

## BRAND CONCEPT

やまがたアルカディア～新たな自分に出逢える郷山～



こちらが熱量を持って話すと共感してくれて「来てよかった!」という感動と笑顔が直接伝わってくる。自然の魅力はもちろん、人との出会いや温かみ、つながりに価値があるというのを再認識していますし、それがとても居心地良いです。地元の人に「こんなに良い場所だったんだ!」と、驚いてもらえるのもガイド冥利に尽きますね。視点が変わると気づく魅力が山形にはまだまだ沢山眠っていて、それを見つけて発信していく仕事にやりがいを感じています。地域の魅力を気球の上から再発見する「やまがた気球プロジェクト」も進行中で、僕自身とても楽しみなんです。



## PROFILE

三好 純史(みよし・じゅんじ) 宮城県仙台市出身。12年間勤めた消防職を退職後、エイチ・アンド・カンパニー株式会社に入社。氷瀑スノーシューツアー、白川湖の水没林カヌー、SUP体験などのアウトドアガイドを務める。先日、熱気球操縦士技能証を取得。

## INFORMATION

見る・触れる・体験する!

やまがたアルカディア観光局では、置賜地方の豊かな風土と奥深い文化が感じられる、滞在交流型旅行商品を企画・提案しています。「東洋のアルカディア」を体験できる様々なプランをぜひご利用ください。



詳しくは  
ツアーHPを  
ご覧ください。



一般社団法人やまがたアルカディア観光局  
〒993-0003 山形県長井市東町2番50号  
TEL.0238-88-1831 FAX.0238-88-1812  
<https://arcadia-kanko.jp/>



公式HP



facebook



Instagram

## SPOT

Okitama Experience

## 深究 × 体験

好きなことに夢中で楽しむ時間を

置賜地域でできる、  
 ここならではの体験、出会える人たち。  
 日々の暮らしの中で、好きなこと、  
 楽しいことを探す時間も  
 また豊かなものです。  
 今回は、特集で紹介した方々と共に  
 新たな価値を見つげられる場所をご紹介します。

※営業時間が異なる場合があります。事前に店舗へご確認ください。

白鷹町歴史民俗資料館 あゆみしる  
(白鷹町)

人々の暮らしに触れる  
 江戸時代終わり頃から昭和まで、  
 白鷹町で実際に使われていた農  
 具、民具を常設展示している資  
 料館。見て触れて道具の使い方  
 を知ること、稲作や養蚕など、  
 地域の人々がどのような知恵と  
 工夫で暮らしを紡いできたかが  
 わかります。人の手によって使  
 われ、改良され、機械に置き換  
 わった民具から見えてくる、今  
 に連なる生きた歴史。民具を使  
 用した音楽なども発信。

〒992-0821 山形県西置賜郡白鷹町十王 2558-1  
 Tel/0238-88-7160  
 開館時間/9:00～17:00 休館日/月～木曜



## YAMAGATA EXPERIENCE

(いいでカヌークラブ) (飯豊町)



見たことのない  
 地域の景色を  
 水没林カヌー、白川湖SUP、冬  
 季の水瀑スノーシューツアーな  
 ど、満足度の高いアクティビティ  
 を提供している「YAMAGATA  
 EXPERIENCE」。  
 車で通るだけだった場所、遊歩  
 道から眺めるだけだった景色  
 の中に分け入り、心ごと溶け込  
 むような体験が人気です。現在  
 は、空の上から田園風景を感じ  
 る「やまがた気球プロジェクト」  
 が進行中。

〒999-0604 山形県西置賜郡飯豊町大字椿 2529  
 Tel/050-5832-7512  
 水没林シーズン/3月24日～5月27日  
 白川湖シーズン/6月1日～11月30日 <https://www.iiede.net>

旧長井小学校 第一校舎  
(長井市)

好きなもの、ことに出会う  
 子どもから大人まで幅広い世代  
 の学びと交流の拠点となってい  
 る旧長井小学校第一校舎。  
 カフェを併設した1階フリース  
 ペースには無料で使えるボード  
 ゲームコーナーがあり、くつろ  
 ぎの時間の中で、誰でも自由に  
 遊ぶことができます。さまざま  
 な講座やイベントを楽しむ「大  
 人のクラス活動」も始動。新た  
 な出会いと交流が生まれる場所  
 です。

〒993-0001 山形県長井市ままの5上-3  
 Tel/0238-87-1802  
 開館時間/9:30～21:30 (展示室は18:00まで)  
 休館日/月曜(月曜が祝日の場合は翌日) <https://kyunagaisho.jp>

けん玉ひろば SPIKe (スパイク)  
(長井市)

自由に楽しむけん玉の世界  
 長井駅から徒歩1分の場所にあ  
 る、誰でも気軽に無料でけん玉  
 が体験できる施設。けん玉検定  
 による級位認定の認定が可能で、  
 競技用けん玉やグッズの購入や  
 ペインティング体験もできます。  
 店内にはワールドカップに出場  
 しているプレイヤーが常駐。直  
 接指導を受けつつワールドクラ  
 スの妙技を見て、想像以上に自  
 由に広がるけん玉の世界を体験  
 できます。

〒993-0084 山形県長井市栄町3-5  
 Tel/070-2016-2509  
 営業時間/10:00～17:00 定休日/無休(年末年始は休み)  
<http://www.nagai-kendama.com>

A TOUCH OF THE WILD  
(小国町)

心躍る自然体験をシェア  
 スイス出身で国際登山リーダー  
 連盟(UIML)認定の資格を持  
 つセドリック・ブラットナさん  
 が、自然の中で過ごす楽しさを  
 伝えてくれます。山の木を削っ  
 て木工をしたり、囲炉裏づくり  
 や火おこし、料理などを通して  
 人と自然のつながりを感じ、新  
 しい自分を発見する時間。満月  
 の夜のハイキングや森の中の  
 チーズフォンデュなど、心と時  
 間を分かち合う企画も進行中。

〒999-1212 山形県西置賜郡小国町大石沢 726  
 Tel/050-3698-4284 (英語、仏語)  
 ツアープラン/週末サバイバル-初級編、トレッキング&シェアなど  
 ※詳しくはHPをご覧ください <https://jp.atouchofthewild.jp>

Naëbaco (ナエバコ)  
(小国町)

季節だけの山のおやつ  
 夏季の山岳高地の放牧場、アル  
 パージュをイメージしたカフェ。  
 山で採集した木の実や、小国町  
 産の食材を使用した季節のおや  
 つ、自家製ハーブティー、お餅な  
 どがいただける山奥のおやつや  
 「ハイキングの途中でちょっと  
 休むことができる場所、峠の茶  
 屋みたいなのをやりたくて」と  
 いうオーナーの川崎さん。  
 2階にはさまざまなイベントに  
 開放しているフリースペースも。

〒999-1212 山形県西置賜郡小国町大石沢 726  
 Tel/0238-62-3719 営業時間/13:00～夕暮れ  
 定休日/日～木曜 ※積雪期休業 <https://naebaco.jp/>



# 市街地エリア MAP



arcadia  
photo  
map

arcadia 季刊誌アルカディア

#15 2023年3月発行(年4回発行)

発行/一般社団法人やまがたアルカディア観光局  
 編集/株式会社やまがたアルカディア編集社  
 写真/船山裕紀、佐藤俊介  
 文章/福井 健、上林晃子  
 デザイン/坂井理枝子

next #16  
SUMMER issue

特集1\_未定  
特集2\_未定

1 表紙：小国町小玉川  
梅花皮荘の残雪桜  
撮影 date：2022年4月  
23日 午前9時30分頃

2 P05：長井市一の宮 總宮  
神社前  
撮影 date：2023年2月  
16日 午前11時00分頃

3 P06：長井市洞松寺  
小野住職自宅一室  
撮影 date：2023年2月  
16日 午後13時00分頃

4 P08-09：白鷹町高玉  
釜の越桜  
撮影 date：2022年4月  
21日 午前9時00分頃

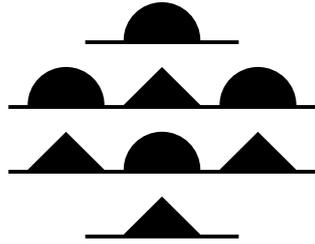
5 P12：長井市けん玉広場  
スパイク店内  
撮影 date：2023年2月  
5日 午前11時00分頃

6 P13：白鷹町歴史民俗資  
料館あゆみしる  
撮影 date：2023年2月  
5日 午後14時00分頃

7 P14：飯豊町白川湖上  
水没林エリア  
撮影 date：2023年2月  
13日 午後14時30分頃

8 裏表紙：白鷹町荒砥  
桜とフラワー長井線  
撮影 date：2022年4月  
21日 午前11時30分

本誌に掲載されている  
写真の場所に行ってみませんか？  
そしてすこしの間だけスマホをしまっ  
てイザベラ・バードが感じた  
美しい風景を眺めてみてください。



やまがた  
アルカディア  
観光局

YAMAGATA  
ARCADIA  
Tourism Bureau

